

■国語が大事ドットコム

第十講

漢詩

◎漢詩の形式

〔A 句の数〕

四句	八句	六句または十句以上

〔B 一句の文字数〕

一句の文字数が七字	一句の文字数が五字

春望	杜甫
① 国破山河在 ③ 感 ^{ジテハ} 時 ^ニ 花 ^{ニモ} 濺 ^{ソセギ} 涙 ^ヲ ⑤ 烽火連 ^{ナリ} 三月 ^ニ ⑦ 白頭搔 ^{カケバ} 更 ^ニ 短 ^ク	② 城春 ^{ニシテ} 草木深 ^シ ④ 恨 ^{シデハ} 別 ^{レヲ} 鳥 ^{ニモ} 驚 ^{カス} 心 ^ヲ ⑥ 家書 ^{ナリ} 抵 ^{あた} 二 ^ル ⑧ 渾 ^{オベテ} 欲 ^ス 不 ^{ラント} 勝 ^{たへ} 簪 ^{しん}

空欄Aに当てはまる語として適切なものを選び。

- 1 宝物
- 2 万金
- 3 六年
- 4 永遠
- 5 蓮花

◎押韻

「」を同じ母音で揃える。

※ 「」の場合、第一句も押韻する。

◎対句

「」の場合、第三句と四句、第五句と六句を対句にする必要がある。

◎李白と杜甫…ともに盛唐時代の詩人

李白（りはく）	別名「	」。自然美をダイナミックに詠む。
杜甫（とほ）	別名「	」。政治批判や民衆の現状を詠む。

「春望」の書き下しと現代語訳

国破れて山河在り

国家が破壊されてしまったというのに山河は今もここにある。

城春にして草木深し

長安の町は春を迎え、草木だけが勢いよく生い茂っている。

時に感じては花にも涙を濺ぎ

世の移り変わりに心が痛み、花を見ても涙が流れる。

別れを恨んでは鳥にも心を驚かす

親しい人たちとの別れを思い、鳥のさえずりに心が騒ぐ。

烽火三月に連なり

戦乱を告げるのろしは三か月の間続き、

家書万金に抵る

家からの手紙は万金に値する。

白頭搔けば更に短く

白くなった頭をかき上げるとさらに髪は薄くなっております。

渾て簪に勝へざらんと欲す

もう全く簪をさすこともできない。